

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100500
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 谷山中央
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央二丁目609番地1 (電話) 099-268-1765
自己評価作成日	令和5年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の明るい雰囲気と毎日の手作りの食事が特色。支援の方向性としてご利用者様の残存機能を生かした自立支援を心掛け、必要以上に介入をしないよう日々意識し、GHで暮らしている利用者方の可能な限り自立した生活のお邪魔にならないことを主として生活支援に取り組んでいます。運営推進会議は本年度はコロナ禍のため対面での開催はできておりませんが地域やご家族とは個別にGHの状況を報告行なって運営へのご理解に努めております。毎日買い出しに出ることで季節の旬の食材を様々な形で提供できており、内容多彩な食卓となっており好評を得ております。緊急時には連携機関である田上記念病院のホットライン対応、また医療連携行っている訪問看護ステーションと連携、指示を仰ぐ体制ができており、訪問看護は定期、週1回の訪問の協力もある。ご利用者様の体調不良時にはご家族等も協力いただきながら医療ニーズへの迅速な初期対応支援が円滑にできてます。ご家族方には入居時から懇切丁寧にGHは利用者方にとって自宅であることをご理解いただけるよう努めており、自宅に家族の出入りがないことは物悲しいことであるもご理解いただくなかで、GHとご利用者への関わる機会を意識いただけるようにコロナ禍のなかにあっても日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は住宅街に位置し、商店街も近くにあり利便性のいい場所である。定期的に民生委員と情報交換し地域情報を得ている。町内会にも加入している。
- ・窓越し面会であるが柔軟に対応し話を聞きとりやすいよう工夫したり、突然の訪問でも快く対応する等、利用者や家族の思いに寄り添いながら関係性が途切れない支援に努めている。
- ・身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束の3原則や虐待の5原則、スピーチロック、ドラックロック等について勉強会を実施し、身体拘束をしないように支援している。緊急時の体制もあり協力医との連携もスムーズにとれている。
- ・職員は声掛けを多くして、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら個別に状態把握している。
- ・管理者は新入職者にもよく声掛けし、分かりやすい指導育成をしている。明るい家庭的な環境で、職員同士も相談しやすく資格取得に向けての支援もあり働きやすい職場にと努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各フロア目の届くところに理念掲示し毎朝申し送り後に職員全員で理念を唱和し理解を深める努めている。理念を朝に職員全員で唱和、共有することにより日常的に理念を反映できるように努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をパンフレット、各フロアに掲示し、毎朝の申し送り後に唱和して意識を高めている。確認をしながら振り返りケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナの影響のため、外部との交流を減らしている。施設に外部からウイルスを持ち込ませないことを重視	町内会に加入し、民生委員と定期的に情報交換し地域情報を得ている。近隣住民とは日常の買い物や散歩で挨拶を交わしたり清掃活動に参加しているが、コロナ禍にあり外部との交流は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者ご家族からの相談に随時応じ、入居、非入居に関わらず認知症などの相談に応じている。時事相談者の状況に合わせて知りうる限りの情報提供を行う中で施設として地域貢献行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子、室内行事等を報告し事業所状況開示行っているがコロナ禍のため書面にての開示である。意見や助言をもとに常にサービス向上に生かしている。	2ヶ月に1回書面で利用者の入退所状況や平均介護度・事故報告・事業所の行事等、現状を運営推進委員に郵送報告し電話等で意見を聴いている。意見や助言はサービス向上に活かせるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日常のサービス提供について疑問等が生じた場合、役所との担当に相談し、迅速に解決に努めている。事故発生時には速やかに報告行っている。更新認定や保護課などとはコロナ禍であるが必要時訪問行っていたい	申請や更新・書類提出等で窓口に出向いている。相談事や疑問がある場合は電話や郵送で助言を貰っている。生活保護課から年1回の訪問があり情報共有する等、連携、協力関係を築いている。市主催の研修はオンラインや動画配信で参加し、職員にも伝達している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、朝の朝礼時に職員全員で唱和し、一切の拘束を行わない様徹底している。入居者様に対しての言葉のかけ方も気をつけるようにしている	年3回身体拘束廃止委員会で身体拘束の3原則や虐待の5原則について学んでいる。朝礼時に身体拘束について全員で唱和し、言葉遣いにも気を付け、拘束を行わないケアを実践している。日中の玄関施錠はせず、外に出たがる場合は話を聞いたり、気分転換が図れるように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度の虐待委員会開催と内部研修にて防止について学び、実践に努めている。またマニュアル完備も行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設研修にて理念擁護の勉強会を開催行っており現在Gh利用者の保佐人とも研修会の情報いただく等、連携の強化を図っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をかけて丁寧かつ十分な利用説明に努めている。常に家族や利用者方の立場に立ち不安や疑問が生じないように初期のインテーク時に注意を払っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍のなかではあるが最小限の面会時に意見を伺うように努めている。またホーム広報誌を定期で発行し、行事活動等の様子を掲載し、状況報告行っている。またメールや電話などでも個別に状況報告を行っている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時や電話・メール等で個別に状況報告し意見や要望を言える機会を設けている。2ヶ月に1回ホーム便りを作成し、写真や担当者の一筆で状況報告して思いを聞き、意見は支援に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的に休憩時など話をする機会がある。またホームでの研修や勉強会を通じて知識を培い、専門的な話し合いが出来る様努め、意見の提案も反映させている。	管理者は職員会議や休憩時に意見や提案等を聞いている。勤務変更等も相談しやすく働きやすい環境である。専門的な話し合いが出来る環境作りを心がけており、車椅子のフットレスの使用方法等、細かな部分の統一確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	現在の状況を管理者が把握し一人ひとりが向上心をもって勤務できるように管理者と職員とで1対1で話す機会を設けて調整行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員にはミーティングでのに内部研修にて少しずつ介護の仕事に対する理解が深まるよう努めており、それと併用して各職員の自発的な意見もフロアとして拾って、生かしていくよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHにて相互に情報の交換を図って質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に利用開始にあたり十分な説明行い、本人、ご家族が納得のいく形での入居にいたるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの人生観を支える思いでお互いが共同生活を行いながら、和やかな雰囲気の中で率直なご意見いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHはご家族の協力のもと利用者方が自宅として生活していく場であることを懇意に説明行い、面会、訪問へのご理解・ご協力へとつなげている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の宗教、家族間、友達などの生活歴などの情報から広く考慮したなかでGHにて本人らしい『在宅』生活で在るよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでの席も配置行ったり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に日々職員間で情報共有しながら努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって身近な方々はいつでも気軽に来訪いただける様努めているがコロナ禍の影響で面会は窓越しの対応中。家族の了解を得ながら縁遠くならないように関係が継続されるよう支援している。	家族との面会は窓越しにしており、電話や手紙の取次ぎも行っている。2ヶ月に1回馴染みの理美容に訪問して貰っている。受診の帰り等、花見やドライブに行き、馴染みの場所や人との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでの席も配置行ったり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の意向にも配慮行いながら随時相談支援に努めている。利用後の相談も対応しており、切れ目のない相談対応行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様とのコミュニケーションの中で、様々なニーズや感情に耳を傾けるとともに、職員や家族の意見や意向の反映に努めている	日常のコミュニケーションの中で思いや意向について聞いている。困難な場合はジェスチャーを用いて質問等をする中で、表情や行動の変化・反応を見逃さないように意向を把握している。生活歴等から職員間で話し合い、本人本位に支援し記録している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係各位からも情報収集に努め、生活歴等の確認行うなかで本人の暮らしてきた環境や在宅環境に近い暮らしの提供ができるよう努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態をよく観察し、できること、もっている残存機能に着目し自立支援に向けた取り組みを意識、行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員で担当利用者を持ち、何かあればその旨を職員間で様々な意見交換を行いながらチームとしてケアに努めている	本人・家族の意見や意向、主治医、看護師の意見や情報を収集して、職員間で検討し介護支援専門員が課題分析をして、介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎、見直しは6ヶ月毎に行い状況変化時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を集め、ケアの方向性がケアマネの画一的なものとならないように日々利用者方の状態の情報把握を職員方と一緒に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	トップダウンではなく新旧職員方からの積極的なアプローチを大事にしながらバランスをもって計画に反映していくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と有効的な活用方法を随時考慮している。地域実情に応じての地域の一員としての暮らしが確保できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍のため職員が中心に代理受診や本人受診の通院介助など必要に応じて対応している。また馴染の主治医への受診、セカンドOP受診対応などはご家族の協力もいただく形で本人にとって不利益のない受診支援に努めている	本人・家族の希望で契約時にかかりつけ医を決めている。協力医療機関からは月1回、職員の同伴で定期受診を受けている。週1回の訪問看護と24時間医療連携体制で適切な医療を受けられるよう支援している。歯科は必要時往診があり、他科受診は家族または職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の医療相談を受けて連携している。協力機関の田上記念病院の外来とも利用者の状況を報告、相談行い、早期受診対応、受け入れ対応の連携をスマートに執り行えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携機関との連携、また入院先となった病院との連携を図り、可能な限りGHにて生活継続できる形を求めている連携に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に御家族等に状態が急変した場合の方針などについて説明、対応の共有を図っている。看取りに関しては条件が整った場合にあらためてその段階で方針などを決定していくこととしている。また重度化、看取りマニュアル作成行い、入居時に説明、交付している	指針やマニュアルを作成している。入居契約時にマニュアルに基づいて家族等に説明し、同意書を貰っている。食事が取れなくなったり、重度化した際には主治医から家族へ病状や今後の対応について説明があり、方向性を再確認している。看取り実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携機関である田上記念病院のホットラインと訪問看護のオンコールを利用し夜間でも相談できるバックアップ体制ができている。マニュアル完備、また管理者への迅速な報告を周知し迅速な対応に動けるよう組織として取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のなかで地域の避難経路や地域の災害特性を情報共有しながらGHでの避難訓練にも生かせるように取り組んでいる	年2回防災訓練を行っている。1回は消防署立会での訓練を予定している。非常通報装置等を業者に点検して貰った後、消火器の位置確認、初期消火訓練、避難誘導訓練の自主訓練を実施している。緊急連絡先に民生委員が入っており、関係性を維持している。備蓄は3日分位の水・カップ麺・フレーク・缶詰等の食料品と防災用具や懐中電灯も準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と傾聴を大事に各利用者の一人一人の人格や性格、プライバシー等を重視した認知症ケアに努めている	研修会や勉強会を実施している。トイレ介助ではプライバシーを損ねない声掛けを行い、ドアの開閉やサイドに立つ等の配慮をしている。入浴時は1対1で対応する等、羞恥心に配慮し特性に応じて対応している。希望を聞いて苗字や名前と呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重して、自己決定の難しい利用者に関してはそのご家族と話あいながら可能な限り本人の思いをくみ取るように支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	けして押し付けるケアになることのないように本人のペースに重きをおいて、見守り重視のケアに努めている。また在宅であること意識し必要以上の介入は避けるように意識して支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日常的に使用するコップなど、小さな持ち物などから彩や個性がみられるよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の挨拶を交代制で行い、誕生日には本人の好きなメニューで提供を行い、食材についても会話しながら楽しめるように日々努めている。またメニューがかぶらないように日々献立作成時にも配慮行っている。またし好やアレルギーなどにも考慮している	献立は嗜好調査を事前に行い、旬な物を使用し季節感を取り入れながらスタッフが作成している。食形態もそれぞれの身体状況に応じて提供している。手作りおせちや恵方巻き等の行事食や誕生日には本人の好きなメニューとケーキやプリンでお祝いしている。食前の挨拶は利用者が担当し、皆で会話しながら楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体調不良なども考慮しながら日々必要量の確保ができていくから細かく確認行っている。また1日の総体としての食事量に着目しながら無理強いしない食事支援も意識行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り本人の自力による支援に努め、介入は少なくするよう意識行っている。個々に応じて舌ブラシ使用、介助も行いながら清潔な口腔ケアにと取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者方の希望に沿えるように布下着着用も見守りにて支援できている。一人一人の性格や羞恥心などプライバシーの配慮にも気をつけながら取り組んでいる。残存機能を活かしつつ見守り行い、待てる介護への取り組み行っており、排泄時間は定時に行いリズムをつくりつつも柔軟に誘導支援している	排泄パターンやそわそわしたり椅子を引く等の排泄前の行動を把握して声掛けし、プライバシーに配慮しながら排泄支援している。夜間ポータブルトイレの使用もあり、柔軟に対応している。トイレでの排泄が可能になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜勤帯、日勤帯が共に日々のバイタル表にて確認有無を申し送りし、便の状況などは主治医へと受診時に細かく報告行い、内服薬調整も積極的に執り行い、変化する状況に対応行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を楽しみされている方や苦手とされている方など、ひとり1人に合わせた声掛けや支援を行い、入浴を楽しむことができるように支援に努めている。週3回支援行っており、全身チェックなど行うよい機会となっている	週3回午前中に入浴を行い、全身のチェックを行っている。希望で午後に入浴にしたり、シャワー浴や足浴をする人もいる。身体状況に応じて支援し、拒否がある場合も時間をずらす等、無理強いせずに支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、体調にあわせて座位や臥床など適切な介入を行っている。不眠がみられる際にはお茶付き添いや声掛けで、本人に安心して入眠いただけるよう支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には必ず日付、朝晩の確認、本人の名前の読み上げ行っている。状態悪化の際にも内服薬の副作用疑い確認も行っており、内服薬への理解への意識つけてきている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶当番、洗濯物干し、野菜の皮むき、台ふきなど各人の生活歴や能力にあった家事参加促すことで生活に張りや小さな役割ができるよう支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため制限多い中であるが年間行事に基づき運営し、天候の良い日には少しの外気浴や気分転換を図って各階への移動交流も短時間で行い、生活の変化を楽しんでいただくように努めている。	年間行事計画を作成している。コロナ禍のため規模を小さくして、気分転換できるようにしている。気候の良い日は窓際や日当たりの良い場所で外気浴をしたり、定期受診後、花見や景色を見にドライブしている。コスモス見物や少人数でマリポートへ外出支援で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力と家族の意向も確認しながら可能な限りの自己管理支援に考慮行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ハガキが届いたら本人にお渡しし、読んでいただき、すべて保存している。電話希望が発生したらご家族への電話連絡～本人との会話支援行っている。携帯電話使用支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ、季節を感じる空間作りにつとめており、視覚的に季節を感じていただけるように努めている。簡易的な職員の作成物を飾ったり、一緒に飾ったりも行っている。コロナ禍であるので適温保ちながらの換気常時適切に行っている	ホールには加湿器付きの空気清浄機を設置し、定期的な換気、遮光カーテンやエアコンで採光や温湿度を調整し、過ごしやすい環境作りをしている。季節に応じてみんなで壁画を作成して楽しんでいる。テレビ、テーブル、椅子、ソファを配置し利用者は新聞を読む等、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席順は随時利用者方の関係性に最大限に考慮し、適時席変更も取り入れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染のものや家具など置くことにより可能な限り自宅に近い雰囲気の中過ごすことができるよう配慮行っている。本人の大切にしているものの持ち込みも契約時に依頼している	居室には木製のベッド、エアコン、洗面台を設置し、寝具類は持ち込みである。本人が大切にしている仏壇や位牌、テレビ、ソファと椅子、家族写真なども持ち込み、自宅に近い雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも本人の動線を利用した箇所を利用して本人が迷わないように考慮した誘導を行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない